

# 職業行動に関する一考察

—ホランド理論とSDS調査票について—

A Study of Vocational Behavior : Holland's Theory  
and Self Directed Search

森 下 高 治

## I ホランド理論について

職業選択、職業適応理論は、外面的な働きかけ、要因に基礎をおく非心理学的理論と内面的な選択、適応における基礎的要因としての個人の行動を問題にする心理学的理論の2つに大別することができる。

心理学的理論のうち、ギンズバーグ（1951）やスーパー（1953）の職業的発達理論は、生涯を通しての選択、適応の問題を発達の視点の一側面からとらえているために余りにも広範囲であると言える。また、精神分析的な立場のボーディン（1963）や欲求理論のロー（1956）などは、職業選択について、より限定された側面に注意をおいているために極めて特殊であるとみられる。このようなことから、心理学的、非心理学的理論の枠を超えたところのさまざまな職業選択、適応理論を統合且つ包括する理論が必要となってくる。

本研究でとりあげるホランド理論は類型学的理論（Typological Theory）とよばれ、考え方の特徴は、「類は友をよぶ」ということわざで表すことができる。すなわち、同じ職業、仕事に携わっている人間には、共通のパーソナリティが存在するととらえ、これをタイプ（類型的）別に分類している。

理論は、特に個人と環境との枠組みで、しかも、従来の心理学的理論の特性要因理論が能力に視点をおいたのに対して、能力以外の興味、活動性をも含めた人間のパーソナリティ全体を問題にしているために、より一步前進したものである。また、パーソナリティタイプができあがるまでの発達過程のなかで、ボーディンやローが指摘する初期の発達の課題を重視している。さらに、各パーソナリティタイプはどのように成長、発展するかなど、スーパーのいう発達の過程のなかでとらえている。

以上のように、ホランド理論は、個人側にある選択、適応のさまざまな問題が含まれてい

る。

そこで、実際の職業の選択、適応の問題を考えると、そこには環境面の重要性が指摘できる。何故ならば、ホランドが示すパーソナリティタイプは、さまざまな文化と仲間、両親、社会的階層、それに物理的環境などを背景とする個人的な力との間の相互作用の結果生まれたものであるからである。環境に対する重要性を指摘する背景には、マレー（1938）の個人の欲求と環境的圧力を問題にするパーソナリティ理論が少なからず影響を与えている。環境は、非心理学的な社会的、経済的環境も入るが、これらが個人のパーソナリティタイプに影響を与え、個有の遺伝的なものを基盤にその人の現在のパーソナリティタイプをつくりあげる。そして、個人のできあがったパーソナリティタイプと現実の職業環境をホランドは選択、適応理論として問題にしているのである。

ホランド（1959）によると、人は、具体的職業名に自己に対する見解や仕事の世界を投影すると考え、殆んどの人が職業のステレオタイプにより、職業の世界をながめることを観察した。そのために、ホランドは、人が好みの生活型を投影できる方法で且つ有効であると思われる Vocational Preference Inventory (VPI) とよばれる職業名リストを1958年にまず開発した。

もともと VPI の誕生は、1953年に端を発しているが、1958年、1959年の理論的枠づけ、つづいて1965年に現在用いられているタイプによる調査票が作成された。その後、この VPI にもとづき、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的及び慣習的の順序を示す後述の6角形のモデル（1969）が見いだされた。

1970年には、具体的職業名の好み（VPI による測定）だけでなく、仕事に関する活動的側面、仕事に対する自己の能力の可能性、それに、能力の自己評価を包含した総合的な職業に関するインベントリー（Self Directed Search）が開発された。これが、SDS 調査票である。

### 理論の枠組み

ホランドは、1959年に「アメリカ合衆国の社会には、幾つかの職業環境が存在する」と報告している。その職業環境とは、運動技能的、知的、援助的、書記的、説得的、審美的の6つである。また、選択の時に、人は6つの職業環境に対応した適応への方向づけをもつとしているが、1962年に6つの適応への方向づけと職業環境は、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6領域に名称を改められた。

理論をもとにかえて、パーソナリティについてのホランドの考え方をみていくと、彼は類似性により、パーソナリティを幾つかのタイプに分類（類型論）できるとしている。ギルフォード（1954）は、類型論（学）に因子分析を用いた一人であるが、氏は、興味とパーソナリティ特性について、機械的、科学的、社会福祉的、書記的、商業的、美的の6つの主要な要因を認めている。

もともと、類型学そのものの起りは、非常に古い。例えば、古典的なものとしては、シュプランガー（1922）の6つの生活様式をあげることができる。シュプランガーは、価値志向の経験のあり方から、生の形式を理論的、経済的、審美的、宗教的、政治的、社会的の6つに大別している。また、パーソナリティ把握のために、ユング（1933）は、外向性-内向性の類型に大別し、フロム（1947）は、受容的、搾取的、貯蓄的、市場的の4種の非生産的性格と創造的な仕事をなしうる生産的性格をあげ、人間を類型に分類しとらえている。

ホランドの場合、この類型を現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6つのパーソナリティとして考えている。一方、同じように、職業（環境）の方も、パーソナリティにうまく対応できる現実的から慣習的までの6領域を考えている。そして、個人と環境を対にして、職業行動についての結果の予測や理解が可能である。また、さまざまな行動についての結果は、職業選択や職業的な安定、成就、それに教育上の選択や達成などが考えられる。

次に、ホランドの基本的な見解について、理論にもとづく4つの仮説をあげる。

1. われわれの文化において、多くの人びとは、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6つのタイプのいずれかにあてはめることができる。これらのパーソナリティタイプは、個人と彼をとりまく環境との相互作用のなかで形成される。すなわち考えられる幾つかの行動のなかで、ある行動をより好むようになり、そのなかで興味や能力が固定しはじめ、ある特定のパーソナリティタイプができあがっていくのである。

2. 人が生活している環境は、同じく現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6つの環境モデルに特徴づけることができる。それぞれの環境は、同一のパーソナリティタイプの人によって殆んど占められる。例えば、現実的環境は、現実的なタイプの人たちによって支配されている。

3. 人は自己の技能や能力を発揮できる環境を求める。また、彼らの態度や価値観が表現できる環境を求める。例えば、現実的タイプの人には、現実的環境（職業）を求め、社会的タイプは、社会的環境を求める。

4. 人の行動は、個人のパーソナリティと環境との相互作用によって決定する。

ホランド理論は、これら4つの仮説のほかに、次の3つの特徴をもちあわせている。

第1は関連性の特徴であるが、個人のパーソナリティタイプや職業環境は、いずれにおいても、ある種のタイプとタイプの間には他のタイプよりも関連性が強いことが認められる。具体例として現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の順序からすると隣接している現実的、研究的な組み合わせのタイプは、企業的、芸術的である組み合わせより、組み合わせは頻繁にみられる。

第2は明確性の特徴があげられる。明確性について、ある個人、環境は、大抵の場合、その他の多くの人や環境よりも、より明確にあるタイプとして限定することができる。

第3は連合性の特徴である。それぞれのパーソナリティタイプは、同じタイプの環境を求め

## 職業行動に関する一考察

るものである。例えば、現実的タイプの人は同じ現実的環境を求め、これは同型のタイプの環境で満足される可能性が最も大きいからである。そのようなことから人と環境との連合性の特徴が考えられる。

次に、各々の6つのパーソナリティについて、興味、能力面、あるいはパーソナリティ特性からその特徴をみる。

### (1) 現実的タイプ—Realistic Type—

現実的な人は、物や道具、機械、動物を相手にする、はっきりした、順序だてた、系統的な活動を好むが、教育的、あるいは治療的な活動は嫌う。

これらの行動傾向は、手腕的、農業的、機械・電氣的技術に関する能力を次第に獲得するようになり、社会的、教育的な能力には不足がちになる。

このタイプの人を具体的に記述すると現実的職業、例えば熟練工を好む。問題解決をはかるために、あらゆる場合に現実的能力を駆使する。また、現実の人間の価値感、形のあるものや金、権力、地位などを重んじる。さらに現実的タイプのパーソナリティは、次のような特徴がみられる。

順応的、具体的、目立たない、率直な、ありのままの、内気な、誠実な、不変の、安定した、地味な、実践的、質素な。

### (2) 研究的タイプ—Investigative Type—

研究的な人は観察によって、物理学的、生物学的、文化的な現象についての抽象的、組織的、創造的な研究を伴う活動を好む。しかし、逆に説得的な、社会的な、反復的な活動は嫌う。

これらの行動傾向は、やがて科学的、数学的能力を獲得するようになり、説得的な能力は欠けがちになる。

研究的な人は、研究的職業や環境を好むが、逆に企業の職業が求める活動は避けようとする。価値づけも、科学的なことに価値感をおき、自己自身を数理的、科学的能力にすぐれているとみている。また、研究者らしく、知的面でも自信があるととらえている。さらに研究的タイプのパーソナリティは、分析的、独自の、地味な、思慮深い、知的な、几帳面な、批評的、内省的、合理的、探究心のある、整然とした、無口である特徴をもつ。

### (3) 芸術的タイプ—Artistic Type—

芸術的な人は、芸術的な作品を作るために、形として、あるいは言葉として表現する。あるいは人間的な題材にみられる、あいまいで、自由で且つ体系づけられていない活動を好む。反対に、明白な、体系的で、秩序だてられた活動は嫌う。これらの行動傾向は、言葉、美術、音楽、演劇、著述などの芸術的能力を獲得し、事務的な、商業的な能力は不足する。

具体的に述べるとこのタイプの人、美的なものに価値づけをおこない、自分自身を芸術的能力にたけた人間とみなしている。また、芸術的タイプのパーソナリティは、観念的、独自

的、独創的、想像的、直観的、感情的、衝動的、複雑な、表現に富む、秩序的でない、実際的でない、形にはまらないの特徴をもつ。

(4) 社会的タイプ—Social Type—

社会的な人は、人を訓練したり、成長、発展させたり、治療したり、教えたりする活動を好む。逆に、機械や道具相手の具体的で且つ秩序だった活動は好まない。

これらの行動傾向は、対人的、教育的な能力のような人間関係面の能力を助長するが、手腕的、技術的能力は逆に不足がちになる。

価値としては、社会的、道徳的な活動や問題を重んじる。パーソナリティは援助的、協力的、社交的、理想的、前向きな、洞察力のある、理解のある、責任のある、親切な、やさしい、寛大な、如才のないの特徴を示す。

(5) 企業的タイプ—Enterprise Type—

企業的な人は、組織目標の達成、あるいは経済的な利益を得るために人を動かす活動を好む。しかし反対に、観察による、具体的な、系統だった活動は嫌う。これらの行動傾向は、主導性や対人接触能力、説得的能力を順次獲得するが、科学的な能力は欠けがちになる。

価値としては、政治的、経済的目標の達成を重んじる。また、このタイプのパーソナリティは、冒険的、衝動的、権威的、エネルギッシュな、自信のある、野望にみちた、社交的、注意をひく、受けがよい、楽天的、快樂的、話好きなの特徴をもつ。

(6) 慣習的タイプ—Conventional Type—

慣習的な人は、記録をつけ、資料をファイルし、複写したりすることを好む。また、定まった計画に従って、記録されたデータを組み変えたり、事務機を操作したり、データ処理を機械でおこなったりする順序だった活動を好む。反対に、あいまいで、自由で、探究的な活動は嫌う。また、慣習的タイプのパーソナリティは、規則正しい、保守的、慎重な、念入りな、实际的、能率的、従順な、順応的、不変の、抑制的、自己統制的、想像的でないの特徴をもつ。

さらにこれらの6つのパーソナリティタイプについて、各領域間の類似度を六角形のモデルで示すと、Fig. 1. のようになる。

これは6つの職業環境の間に見られる類似度にもあてはまる。図において、互いに隣接してい

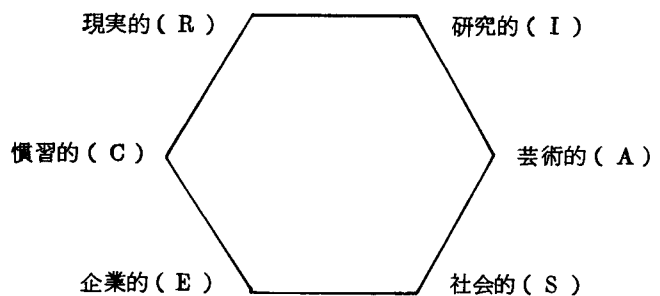


Fig. 1 ホランドによる六角形のモデル (1969)

る領域である現実的と研究的、芸術的と社会的、企業的と慣習的などは密接であり関連性が深い。また、一つにおいて隣にある領域は、関連性が少し弱くなるが、反対の位置にある領域の芸

## 職業行動に関する一考察

術的一慣習的、現実的一社会的などよりは、かなり共通している。

以上でホランド理論の概要を述べたが、本研究は、これら理論の内容的問題点を SDS 調査票から検討を加える。

具体的な検討は、SDS 尺度間の内部相関、SDS の信頼性および妥当性の問題について取り上げることとする。

## II SDS 調査票の検討

### 1. 調査票の構成

SDS 調査票は、活動性、能力、職業興味、自己評価①および②の 5 つの側面から構成され、これらから SDS 総合得点結果が求められる。さらに総合得点にもとづき個人のパーソナリティタイプが得られる。また、5 つの尺度以外に自己の将来の具体的な職業志望が問われるが、本報告では、これについては扱わない。

そこで、SDS の 5 つの尺度の説明を加えると、活動性は仕事に関するさまざまな活動の好みを問題にしている。また、能力はさまざまな活動ができるかどうかである。これら 2 側面の設問は 6 領域に分れおのおの 11 項目からなっている。職業興味は、具体的職業名についての好みの判断が求められる。特にこの尺度は、ホランドの Vocational Preference Inventory (VPI, 1965) を基礎に 6 つのタイプに対応する 6 領域に分類できる職業名が用意されている。各領域ごとに 14 の設問からなり、計 84 の職業名がリストされている。さらに、自己評価は、機械に関する能力など 6 領域に関する能力の自己評価で、①および②の 2 種からなっている。いずれも 7 段階による順位づけ評価である。

スコアリングは 5 つの下位尺度のうち「能力の自己評価①および②」を除き、他の 3 側面はすべて○印をつけた個数を 1 点として算出した。したがって、「活動性」と「能力」は各領域ごとに最高 11 点から最低 0 点の範囲にある。

「職業興味」は、各領域ごと 14 項目が用意されているため最高 14 点から 0 点の範囲にある。また、「能力の自己評価①および②」は、7 段階の各順位づけにおける段階点をそのまま得点として取り上げた。

次に、5 つの下位尺度から総合得点を求めたが、総合得点の算出は、各側面ごとに得点の高いものから順に、第 3 位までをコード化（領域でもって示す）し、全ての尺度を通じて第 1 位にある各領域の個数をかぞえ、それに各領域ごとに 3 倍を乗じた。以下、第 2 位は 2 倍、第 3 位は 1 倍として総計したものである。

なお、本研究での各調査対象者の統計的処理は、関西学院大学情報処理研究センター FACOM 230-38 を用いた。

Table 1

## SDS の内部相関結果について

	活動性						能力						職業興味						自己評価①						自己評価②						総合					
	Ra	Ia	Aa	Sa	Ea	Ca	Rc	Ic	Ac	Ss	Ec	Cc	Ro	Io	Ao	So	EO	Co	R1	I1	A1	S1	E1	C1	R2	I2	A2	S2	E2	C2	Rs	Is	As	Ss	Es	Cs
Ra	**	352	179	017	167	079	522	209	071	006	100	093	497	280	103	040	086	033	389	169	057	-105	-042	-174	206	126	-084	-101	-026	-156	495	178	013	-244	-029	-157
Ia	308	**	158	037	203	073	255	433	015	053	118	043	414	600	121	099	023	108	203	542	-088	-093	-185	-186	091	315	-119	001	-125	-183	143	614	-117	-178	-200	-235
Aa	104	235	**	237	282	092	111	138	553	256	240	075	187	247	594	114	167	-016	-118	-132	524	091	-046	084	021	-175	434	-029	037	-058	-133	-231	664	-135	-095	-255
Sa	052	067	295	**	377	176	008	078	324	557	309	195	117	185	259	465	333	165	-122	-116	-047	316	203	065	-112	-070	134	275	235	-072	-280	-273	-006	535	171	-123
Ea	-045	127	290	422	**	284	122	110	265	487	591	242	181	233	311	418	449	250	-025	-021	-024	262	238	103	-118	026	106	084	395	-030	-239	-188	-016	183	507	-080
Ca	091	092	048	262	248	**	031	-027	045	215	227	505	096	063	007	161	256	578	-018	-119	-132	083	163	266	-170	070	-055	-007	065	417	-219	-205	-227	-005	085	610
Rc	557	294	149	106	094	042	**	399	235	159	287	285	341	194	109	021	069	025	418	155	052	-035	-023	-093	304	150	-075	-004	033	-115	470	113	003	-200	026	-139
Ic	234	537	184	120	164	012	491	**	259	219	232	177	251	366	096	165	022	070	149	350	044	015	-135	-115	088	154	-026	030	-053	-119	076	402	-024	-074	-169	-222
Ac	086	129	605	259	217	074	292	312	**	455	403	307	140	117	448	163	238	018	-070	-203	425	148	104	078	044	-157	397	037	100	-051	-192	-348	560	-027	048	-219
Sc	-053	067	243	555	501	259	164	235	426	**	644	381	140	141	257	450	312	221	019	-103	089	367	198	065	-084	-021	157	301	378	-019	-315	-308	022	514	252	-134
Ec	066	073	222	381	598	243	293	277	359	701	**	375	132	163	277	262	387	187	100	-034	107	263	248	058	-048	070	142	154	476	-099	-202	-205	040	172	518	-131
Cc	113	139	113	184	273	543	297	234	260	324	351	**	119	038	019	153	198	317	123	-109	-035	042	160	295	006	082	-065	046	112	376	-104	-230	-154	-035	095	476
Ro	574	324	133	038	-018	059	345	221	035	-068	003	083	**	604	334	204	297	280	225	155	042	-109	-020	-144	151	068	-070	012	013	-157	299	216	031	-175	-060	-194
Io	247	644	268	080	074	-004	226	502	211	080	117	080	461	**	405	314	255	237	066	332	-025	-061	-147	-133	048	096	-044	102	-009	-166	020	442	016	-069	-146	-262
Ao	000	121	689	153	204	-028	038	098	458	150	169	072	111	288	**	284	444	137	-123	-125	384	032	036	058	035	-174	345	036	080	-154	-159	-236	578	-110	042	-315
So	-054	164	204	365	303	229	-030	136	124	443	280	179	169	252	268	**	319	319	-072	-041	-114	287	065	073	-116	-019	068	139	197	007	-257	-172	-088	513	070	-059
EO	033	-112	093	248	383	303	033	002	083	240	360	250	193	071	243	297	**	504	-092	-142	027	075	344	007	-096	-129	061	120	274	051	-225	-266	056	058	503	-001
Co	083	045	-025	044	087	515	062	006	-033	054	063	408	280	087	105	252	472	**	004	-031	-134	039	213	108	-176	060	-053	034	087	332	-206	-118	-211	002	137	444
R1	578	250	-134	-123	-166	-141	527	239	-055	-120	-052	-016	403	170	-185	-140	-147	-013	**	347	-094	-057	-186	-128	298	268	-131	-089	027	-077	450	266	-195	-188	-062	-076
I1	234	537	-088	-134	-128	-156	256	459	-054	-133	-080	-017	212	428	-133	-121	-271	-131	470	**	-179	-173	-413	-257	134	415	-207	-048	-168	-213	201	755	-265	-169	-256	-219
A1	-105	-077	551	009	063	-133	-024	-030	459	120	075	-024	-076	050	471	010	-012	-169	-250	-195	**	-007	-117	-128	119	-189	508	-089	-020	-128	-022	-235	769	-240	-129	-317
S1	-187	-067	-010	301	218	087	-061	-080	061	412	287	053	-203	-099	-021	354	050	-013	-235	-198	-078	**	089	-011	-024	-039	194	203	357	-013	-201	-277	-059	567	121	-147
E1	-093	-265	-055	168	290	207	-120	-164	-052	222	347	104	-105	-219	-022	064	451	170	-244	-410	-073	137	**	019	-119	-180	-039	162	311	130	-162	-386	-114	114	584	106
C1	-305	-212	076	029	134	244	-261	-147	030	093	086	191	-229	-190	111	037	137	116	-523	-358	059	002	056	**	-170	-064	031	093	060	387	-286	-341	-078	020	000	535
R2	459	209	039	-120	-110	-167	385	210	055	-143	-017	-104	284	159	-041	-151	-155	-122	559	346	021	-163	-173	-265	**	032	-165	-255	-139	-313	647	141	036	-233	-124	-252
I2	163	411	-153	-146	-101	-028	204	257	-086	-047	-019	090	090	225	-120	-090	-218	-007	306	567	-186	009	-212	-234	189	**	-241	-124	-206	-083	116	515	-310	-104	-154	003
A2	-121	-075	441	069	004	-095	-081	-046	433	086	-007	-087	-081	034	386	017	-025	-061	-105	-094	464	-047	-037	017	-139	-218	**	-072	-025	-140	-286	-328	685	-015	-092	-232
S2	-114	-153	-014	383	167	016	-085	-067	-025	300	194	018	-097	-083	-064	168	200	014	-177	-241	-035	313	225	113	-289	-266	-117	**	263	-065	-302	-127	-165	564	111	-105
E2	-080	-134	026	160	476	084	009	007	010	382	499	110	-110	-112	010	167	310	-035	-211	-239	039	268	386	210	-183	-225	-192	293	**	-066	-229	-320	-091	283	611	-113
C2	-191	-201	-109	032	073	417	-162	148	-086	031	041	405	-058	-152	-071	139	242	353	-268	-246	-099	111	211	354	-359	-218	-169	011	045	**	-267	-244	-208	-054	-006	720
Rs	678	124	-188	-260	-327	-204	526	077	-152	-349	-233	-142	503	051	-241	-290	-237	-072	769	301	-203	-316	-250	-435	662	191	-189	-260	-279	-311	**	317	-107	-362	-182	-176
Is	144	663	-161	-269	-225	-207	159	537	-120	-248	-216	-103	159	532	-187	-135	-374	-160	347	795	-249	-222	-424	-337	239	644	-183	-291	-319	-290	255	**	-306	-262	-348	-241
As	-185	-127	680	-037	-018	-215	-136	-123	561	005	-057	-140	-156	-009	637	-059	-089	-203	-272	-216	746	-108	-146	102	-072	-257	687	-139	127	-173	-248	-252	**	-255	-165	-390
Ss	-341	-256	-106	522	187	077	-255	-207	-062	521	208	-001	-295	-240	-132	476	086	-049	-354	-384	-108	666	193	104	-390	-245	-100	632	270	105	-431	-380	-159	**	143	-102
Es	226	-330	-114	133	568	134	-128	-166	-089	313	560	070	-234	-284	-063	076	540	040	-306	-391	-068	207	660	192	-259	-278	-134	246	695	142	-349	-460	-172	270	**	007
Cs	-265	-276	-260	-143	-111	499	-290	-291	-234	-162	-168	413	-178	-333	-172	-036	123	500	-329	-326	-217	-071	128	550	-366	-152	-155	-034	-045	684	-269	-285	-203	032	076	**

右上に示されている相関係数は大学生女子 (N = 418), 左下は大学生男子 (N = 480) の結果である。

## 2. SDS 尺度間の内部相関

SDS の 5 つの下位尺度および総合結果がいかに関連しているかをみるため、Table 1 のとおり相関係数を求めた。男子の対象は大学生 480 名で、内訳は文学部、社会学部、法学部、経済学部、経営学部、商学部、理学部、農学部、工学部、医学部、芸術系学部、それに教育学部の各学部 40 名ずつである。一方、女子の対象は 418 名である。各学部の内訳は、文学部、社会学部、経済系学部、薬学部、美術学部、音楽学部、教育学部がいずれも 40 名ずつである。また、法学部は 24 名、理学部と医学部はともに 17 名である。さらに、短期大学の幼児教育科と看護科を各 40 名抽出し対象に含めた。調査実施期は 1977 年 1 月から 1979 年 7 月までの間である。男女ともに専攻学部の対象は広範囲にわたっている。

そこで、表から SDS の下位尺度の各領域とそれに対応する総合結果の領域とは、最も関連性が高いことが明らかである。例えば、活動性における現実的領域と総合での現実的領域は、男子で .678、女子で .495 の相関を示し、残り 5 領域に比し最も相関値が高い。また、能力における現実的領域と総合での現実的領域の結果は、男子が .526、女子は .470 を示し総合での他領域の結果よりも高い。職業興味などの他の下位尺度と総合との結果も同様なことが言える。

さらに、5 つの下位尺度のなかで、例えば現実的領域は、他の側面の現実的領域と密接に関連していることが明らかである。すなわち、活動性における現実的領域は、能力、職業興味、自己評価①および②の各現実的領域とそれぞれ相関が .557、.574、.578、.459 で高くうまく対応している。

次に、この内部相関結果をホランドら (1969) やクレブトリー (1971) が示す六角形モデルにあわせてみると、男子の総合では、現実的領域と社会的領域が逆の関係にあり、-.431 で相関値が最も高い。同様に研究的領域は企業的領域と-.460 で逆の高い関係を示し、2 領域間の距離は最も遠い。さらに芸術的領域は、慣習的領域とやや弱い逆の関係にある。

一方、女子は現実的領域と社会的領域が-.362 で逆の関係に、また、研究的領域も企業的領域と同じ結果を示し距離が最も遠い。さらに芸術的領域と慣習的領域も逆の関係を示し、反対の位置にある。

以上から、総合結果を構成する各領域と下位尺度との関係、また、下位尺度間内部の関係、さらに六角形モデルの成立が本分析から明らかになった。

## 3. 信頼性について

### 1. 折半法による検討

Table 2 に示すように、男子は、大学の経済学部と経営学部の学生、3 年生 35 名、4 年生 15 名の計 50 名を対象に、折半法による信頼性 (スピアマン・ブラウンにて修正) の検討を加えた。一方、女子は、短期大学看護科の学生、1 年生 10 名、2 年生 40 名の計 50 名を対象とした。

信頼度係数の算出は、SDS 下位尺度のなかで、活動性、能力、職業興味の 3 側面を取り上



げる。

Table 2 において、男女ともに一部、数値の低い値がみられるが、上記3側面の殆どどの領域にわたって、信頼度係数は、.700～.800が多く折半法による信頼性は高いと判断される。

Table 2  
折半法によるSDS下位尺度(活動性、能力、職業興味)の信頼性結果

	大学生男子 <sup>a)</sup> (N=50)			短期大学生女子 <sup>b)</sup> (N=50)		
	Mean	S D	S-B	Mean	S D	S-B
活動性						
現実的(R)	4.22	2.56	.755	1.96	2.04	.703
研究的(I)	3.74	2.55	.762	4.16	2.63	.779
芸術的(A)	4.52	2.75	.814	6.72	2.53	.749
社会的(S)	7.04	2.42	.786	8.38	1.74	.507
企業的(E)	4.18	3.28	.810	3.40	2.93	.816
慣習的(C)	4.42	2.45	.792	4.10	2.76	.799
能力						
現実的(R)	7.08	2.13	.755	4.06	2.38	.748
研究的(I)	5.50	2.91	.749	6.96	1.56	.635
芸術的(A)	4.16	2.80	.884	7.62	2.70	.845
社会的(S)	4.94	3.29	.917	6.84	3.07	.896
企業的(E)	4.58	3.27	.854	3.72	2.49	.861
慣習的(C)	6.02	2.17	.712	6.08	2.64	.729
職業興味						
現実的(R)	2.92	2.60	.774	2.10	1.82	.629
研究的(I)	3.54	3.67	.648	6.92	3.58	.784
芸術的(A)	4.66	3.53	.894	6.52	4.22	.925
社会的(S)	3.44	3.26	.868	6.40	2.82	.823
企業的(E)	6.46	2.89	.720	3.04	2.13	.749
慣習的(C)	4.48	3.50	.851	1.68	2.13	.706

a) 実施期日 1979年4月26日

b) " 1979年7月2日、9日

## 2. 再検査法による検討

再検査法を用いた信頼度係数は、Table 3 にみられるように、.556～.892の範囲にある。特に、SDS下位尺度及び総合結果の各領域は .700～.800 が殆どを占め高い係数を保っており、男女ともに折半法による結果と同様、満足すべき信頼性が得られていると判断される。

再検査法の対象は、男子が、大学の経済学部及び経営学部の学生、3年生30名、4年生27名の計57名である。第1回調査実施期日は、1979年4月26日、第2回は同5月17日である。

また、女子は、短期大学幼児教育科の1年生105名を対象に、第1回調査実施期日は、1978年1月17日、第2回は同2月7日の実施で、男子と同様、3週間の期間をおいている。

## 4. 妥当性について

### 1. 因子的妥当性による検討

SDS調査票の因子的妥当性を求めるために、ここでは主因子法で因子分析し、バリマック

職業行動に関する一考察

Table 3

再検査法による SDS 下位尺度および総合得点の信頼度係数 ( r ) について  
大学生男子 ( N = 57 )

領域	活動性	能力	職業興味	自己評価①+②	総合
現実的 ( R )	.851	.856	.790	.864	.854
研究的 ( I )	.769	.885	.829	.873	.892
芸術的 ( A )	.680	.850	.758	.871	.857
社会的 ( S )	.834	.863	.815	.556	.789
企業的 ( E )	.869	.825	.766	.725	.820
慣習的 ( C )	.752	.793	.806	.792	.871

短期大学生女子 ( N = 105 )

領域	活動性	能力	職業興味	自己評価①+②	総合
現実的 ( R )	.779	.662	.720	.742	.610
研究的 ( I )	.695	.777	.842	.724	.603
芸術的 ( A )	.714	.798	.827	.837	.790
社会的 ( S )	.700	.715	.783	.603	.581
企業的 ( E )	.726	.801	.745	.664	.745
慣習的 ( C )	.819	.778	.732	.766	.809

\*いずれの対象も、再検査は3週間後に実施した。

自己評価①+②は、①に②を加算した値をもとに算出したものである。

ス回転をおこなった。

対象は、大学生男子480名である。内訳は、文科系が文学部、社会学部、法学部、経済学部、経営学部、商学部の6学部、理科系は理学部、農学部、工学部、医学部の4学部、それに芸術系学部(音楽学部7名を含む)、教育学部の各40名ずつ、合計480名を抽出した。調査実施期は1977年1月から1979年7月までの間で、内部相関の分析で用いた対象と同一である。

Table 4 は、30の尺度の因子負荷量を示す。

第I因子 第I因子の因子負荷量の高い尺度は、活動性の芸術的領域、能力の芸術的領域、それに芸術的職業が含まれている職業興味、能力の自己評価の芸術的能力、音楽に関する能力の5尺度で、これらの全ては、芸術的側面を測定していると考えられる。したがって、第I因子は芸術的因子と考えられる。

第II因子 因子負荷量の高いものは、活動性の現実的領域、能力の現実的領域、それに現実的職業の興味があげられる。また、能力の自己評価は、機械に関する能力と手腕の技術の能力があげられ、これらは、全て正の因子負荷量を示す。反対に、自己評価のなかの書く能力は、負の負荷量を示し比較的高いが、第II因子は、機械、電気等のものを対象とした、道具を用いた活動、能力を表す現実的、実践的側面を含む現実的因子と考える。

第III因子 活動性では、物理、数学、化学、生物などの研究的活動を含む領域、能力も研究的能力の領域、さらに、職業興味は、研究的な職業に高い負荷量を示す。また、能力の自己評価の6つの特性のなかで、科学的な能力、計算や応用問題を推理し、解く能力にも因子負荷量が高いことから、この因子は研究的因子と考えられる。

職業行動に関する一考察

Table 4

因子分析による因子負荷量結果

	第I因子	第II因子	第III因子	第IV因子	第V因子	第VI因子	第VII因子	第VIII因子	共通性 (h <sup>2</sup> )
活動性	1 現実的領域	-.001	.800	-.103	.005	.074	-.066	-.218	.708
	2 研究的領域	-.068	.154	-.814	.024	.018	.040	-.199	.733
	3 芸術的領域	-.836	.036	-.118	-.106	.009	.096	-.143	.755
	4 社会的領域	-.192	.081	.019	-.186	.129	.711	-.075	.606
	5 企業的領域	-.167	-.070	-.120	-.687	.138	.270	-.065	.615
	6 慣習的領域	.041	-.022	.003	-.096	.791	.157	-.083	.668
能力	7 現実的領域	-.119	.745	-.249	-.173	.171	.021	.123	.706
	8 研究的領域	-.139	.258	-.688	-.219	.069	.039	.028	.614
	9 芸術的領域	-.764	.175	-.118	-.129	.156	.173	.190	.735
	10 社会的領域	-.239	.029	-.109	-.461	.196	.645	.168	.766
	11 企業的領域	-.177	.139	-.124	-.733	.191	.342	.117	.770
	12 慣習的領域	-.090	.103	-.169	-.206	.792	.079	.117	.737
職業興味	13 電気・機械・屋外の職業	-.027	.515	-.192	.067	.085	-.050	-.625	.709
	14 物理・数学・生物 化学的職業	-.206	.102	-.696	-.001	-.055	.039	-.457	.750
	15 芸術的職業	-.744	-.109	-.088	-.096	-.004	-.005	-.333	.693
	16 対人接触的職業	-.122	-.150	-.170	-.078	.165	.587	-.417	.618
	17 管理的・販売的職業	-.049	-.005	.206	-.484	.311	.079	-.545	.679
	18 事務・計算的職業	.079	.031	.051	.030	.666	.014	-.476	.680
能力の自己評価①	19 機械に関する能力	.192	.804	-.192	.163	-.098	-.084	-.002	.763
	20 科学的な能力	.172	.257	-.740	.171	-.149	-.138	.085	.721
	21 芸術的な能力	-.760	-.096	.115	-.050	-.142	-.107	.081	.641
	22 教えること的能力	.096	-.166	.043	-.092	.007	.716	.158	.585
	23 営業販売の能力	.131	-.064	.409	-.556	.119	.073	-.159	.543
	24 書く能力	-.117	-.519	.149	-.211	.352	-.156	.081	.505
能力の自己評価②	25 手腕の技術に関する能力	-.015	.652	-.156	.018	-.198	-.228	.052	.544
	26 計算や応用問題を 推理しとく能力	.248	.147	-.628	.132	.024	-.072	.203	.541
	27 音楽に関する能力	-.702	-.071	.140	.222	-.084	.043	.048	.579
	28 人と協力して 仕事をする能力	.126	-.109	.242	-.211	-.117	.565	-.111	.476
	29 人や仕事を管理する能力	.090	-.130	.121	-.803	.071	.133	-.001	.707
	30 事務能力	.143	-.307	.188	-.007	.671	-.016	-.062	.605
	$\Sigma a^2$	3.387	3.269	3.245	2.846	2.711	2.522	1.773	19.752
	寄与率 $\Sigma \frac{a^2}{N}$	.113	.109	.108	.095	.090	.084	.059	.658

## 職業行動に関する一考察

第Ⅳ因子 因子負荷量の高い尺度は、活動性が企業的活動の領域に、能力も企業的能力の領域、職業興味は、企業経営者、工場長などが含まれる企業的な職業領域に負荷量が高い。また、営業販売の能力、人や仕事を管理する能力も各々負荷量が高いことから、この因子は企業因子と考えられる。

第Ⅴ因子 活動性の慣習的領域、能力の慣習的能力の領域、それに、職業興味の慣習的な職業領域が高い因子負荷量を示す。また、能力の自己評価に関する事務能力や書く能力が、他の能力より目立っている。これらのことから、この因子は、慣習的側面を含む慣習的因子と考えられる。

第Ⅵ因子 活動性の社会的領域、能力の社会的領域、それに、職業興味の対人接触を中心とする社会的な職業が高い因子負荷量をもつ。また、教えることのできる能力、人と協力して仕事をすることが、それぞれ高い負荷量をもつことから、社会的、対人接触を中心とする社会的因子とみられる。

第Ⅶ因子 第Ⅰ因子から第Ⅵ因子までは、30の尺度のうち、各側面からほぼ一領域が集まり、全体として、一つの因子を構成していたが、第Ⅶ因子は、職業興味に関する現実的職業の領域から慣習的職業の6領域までに比較的高い因子負荷量を示す。これらのことからこの因子は、職業興味の因子と考えられる。しかし、因子負荷量はこれまでの6因子の負荷量よりも全般に低い。

以上、第Ⅶ因子まで説明を加えたが、全体を通し、これらの結果を寄与率からみると、第Ⅰ因子から第Ⅵ因子までの因子と、第Ⅶ因子とはやや異なる。本結果は、固有値1.0以上で、第Ⅶ因子まで求められたが、解釈は第Ⅵ因子までとみてよい。結論として、因子分析による本結果は、ホルランドが言う現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的の6分類が高い因子的妥当性をもつことを明らかにした。

### 2. 併存的妥当性による検討

#### (1) SDSとVRテスト\*との関連性

対象は高等学校\*\*2年生、男子58名である。併存的妥当性による検討を加えるために、本検査をVRテストと関連させた。

VRテストは、職業・仕事に対する興味(A検査)と職務遂行の自信(C検査)、いずれも8つの職業クラスターからなるものと、それに、日常生活全般の基礎的志向性(B検査)を測定する3検査から構成されている。

本分析では、SDSは活動性、能力、職業興味の3側面、VRテストは興味と自信の2尺度をとりあげ、Table 5に示すようにSDSとの相関係数を求めた。また、それぞれの平均値と標準偏差はTable 6-1、6-2に示す。

---

\* 職業研究所編 職業レディネス・テスト 雇用問題研究会 1972

\*\* 大阪府にある私立A高等学校

Table 5  
SDS と VRテストとの相関関係<sup>a), b)</sup>

SDS	VRテスト	興味尺度								自信尺度							
		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII
活動性																	
R	.481 <sup>***</sup>	.462 <sup>***</sup>	.128	-.046	.034	.173	.147	.238	.594 <sup>***</sup>	.498 <sup>***</sup>	.069	-.011	-.008	.026	.037	.372 <sup>**</sup>	
I	.368 <sup>**</sup>	.351 <sup>**</sup>	.517 <sup>***</sup>	.067	.094	.407 <sup>**</sup>	.186	.196	.354 <sup>**</sup>	.248	.495 <sup>***</sup>	.085	.037	.176	-.004	.109	
A	-.152	.005	.082	.357 <sup>**</sup>	.638 <sup>***</sup>	.149	.321 <sup>*</sup>	.334 <sup>*</sup>	-.179	-.073	.032	.039	.662 <sup>***</sup>	.224	.299 <sup>*</sup>	.349 <sup>*</sup>	
S	-.144	-.195	.134	.465 <sup>***</sup>	.487 <sup>***</sup>	.125	.372 <sup>**</sup>	.194	-.256	-.196	.079	.590 <sup>***</sup>	.509 <sup>***</sup>	.154	.419 <sup>**</sup>	.166	
E	-.328 <sup>*</sup>	-.174	.138	.586 <sup>***</sup>	.552 <sup>**</sup>	.323 <sup>*</sup>	.365 <sup>**</sup>	.307 <sup>*</sup>	-.347 <sup>*</sup>	-.275	.092	.515 <sup>***</sup>	.476 <sup>***</sup>	.246	.402 <sup>**</sup>	.253	
C	.142	.004	.132	.305 <sup>*</sup>	.134	.516 <sup>**</sup>	.402 <sup>**</sup>	.285 <sup>*</sup>	-.041	-.089	.094	.323 <sup>*</sup>	.098	.417 <sup>**</sup>	.251	.321 <sup>*</sup>	
能力																	
R	.539 <sup>***</sup>	.421 <sup>**</sup>	.082	-.095	-.036	.049	.061	.129	.552 <sup>***</sup>	.430 <sup>**</sup>	.061	-.056	-.127	-.036	-.073	.228	
I	.287 <sup>*</sup>	.254	.367 <sup>**</sup>	.136	.147	.297 <sup>*</sup>	.123	.265	.228	.207	.333 <sup>*</sup>	.205	.241	.102	-.032	.152	
A	-.114	-.032	.083	.412 <sup>**</sup>	.608 <sup>***</sup>	.057	.375 <sup>**</sup>	.313 <sup>*</sup>	-.152	-.088	-.059	.383 <sup>**</sup>	.576 <sup>***</sup>	-.051	.355 <sup>**</sup>	.312 <sup>*</sup>	
S	-.110	-.058	.129	.523 <sup>***</sup>	.534 <sup>***</sup>	.240	.351 <sup>**</sup>	.318 <sup>*</sup>	-.161	-.113	-.014	.471 <sup>***</sup>	.471 <sup>***</sup>	.193	.495 <sup>***</sup>	.376 <sup>**</sup>	
E	-.146	.005	.135	.605 <sup>***</sup>	.549 <sup>***</sup>	.374 <sup>**</sup>	.428 <sup>**</sup>	.303 <sup>*</sup>	-.176	-.132	.054	.504 <sup>***</sup>	.497 <sup>***</sup>	.259	.432 <sup>**</sup>	.270 <sup>*</sup>	
C	.251	.249	.215	.339 <sup>*</sup>	.180	.525 <sup>**</sup>	.477 <sup>**</sup>	.528 <sup>**</sup>	.177	.215	.112	.359 <sup>**</sup>	.184	.471 <sup>**</sup>	.259	.417 <sup>**</sup>	
職業興味																	
R	.603 <sup>***</sup>	.549 <sup>***</sup>	.361 <sup>**</sup>	-.051	.007	.257	.146	.224	.573 <sup>***</sup>	.475 <sup>***</sup>	.335 <sup>*</sup>	-.060	-.029	-.015	-.075	.230	
I	.249	.332 <sup>*</sup>	.523 <sup>***</sup>	.175	.199	.357 <sup>**</sup>	.152	.199	.239	.194	.480 <sup>***</sup>	.232	.155	.141	.012	.074	
A	-.222	-.043	.292 <sup>*</sup>	.424 <sup>**</sup>	.646 <sup>***</sup>	.098	.297 <sup>*</sup>	.300 <sup>*</sup>	-.204	-.126	.211	.430 <sup>**</sup>	.616 <sup>***</sup>	.055	.279 <sup>*</sup>	.275 <sup>*</sup>	
S	-.065	-.003	.262	.473 <sup>***</sup>	.282 <sup>*</sup>	.350 <sup>**</sup>	.358 <sup>*</sup>	.241	-.044	-.019	.279 <sup>*</sup>	.466 <sup>***</sup>	.208	.305 <sup>*</sup>	.381 <sup>**</sup>	.338 <sup>**</sup>	
E	-.113	.035	.147	.379 <sup>**</sup>	.491 <sup>***</sup>	.178	.305 <sup>*</sup>	.183	-.075	-.105	.084	.399 <sup>**</sup>	.405 <sup>**</sup>	.152	.354 <sup>**</sup>	.297 <sup>*</sup>	
C	.023	.061	.170	.312 <sup>*</sup>	.186	.535 <sup>***</sup>	.273 <sup>*</sup>	.274 <sup>*</sup>	.012	-.047	.199	.284 <sup>*</sup>	.154	.443 <sup>***</sup>	.219	.287 <sup>*</sup>	

\* P < .05    \*\* P < .01    \*\*\* P < .001

a) 高校生男子58名を対象とする。

b) SDSの実施は1978年2月~3月におこない、職業レディネス・テストは同年5月に実施した。

Table 6-1  
SDS下位尺度の平均値と標準偏差  
高校生男子 (N=58)

	Mean	S D
<b>活動性</b>		
現実的(R)	5.07	2.82
研究的(I)	4.64	2.96
芸術的(A)	4.93	2.45
社会的(S)	6.50	2.41
企業的(E)	4.09	2.98
慣習的(C)	3.04	2.10
<b>能力</b>		
現実的(R)	6.40	2.74
研究的(I)	5.55	2.68
芸術的(A)	4.36	3.00
社会的(S)	4.76	3.01
企業的(E)	3.98	3.07
慣習的(C)	4.36	2.29
<b>職業興味</b>		
現実的(R)	4.21	3.14
研究的(I)	5.52	4.00
芸術的(A)	4.10	3.62
社会的(S)	2.34	2.56
企業的(E)	3.86	3.11
慣習的(C)	2.31	2.60

Table 6-2  
VRテストにおける興味および  
自信尺度の平均値と標準偏差  
高校生男子 (N=58)

	Mean	S D
<b>興味尺度(A検査)</b>		
I	14.88	5.34
II	14.40	4.01
III	13.00	4.49
IV	15.79	4.65
V	13.59	5.04
VI	9.60	3.13
VII	7.34	2.89
VIII	10.84	3.75
<b>自信尺度(C検査)</b>		
I	15.90	5.36
II	13.02	3.74
III	13.84	3.86
IV	16.50	4.31
V	13.38	4.22
VI	11.48	3.49
VII	9.67	3.17
VIII	12.74	3.73

ここでは、相関係数のうち、主として0.1%水準以上の有意なものを扱う。

#### ◇ SDSの活動性とVRテストの興味および自信尺度との関連性

##### ① 活動性とVRテストの興味尺度について

現実的領域が、VRテストの第Iクラスターの機械・技術、第IIクラスターの研究・管理と関連が深い。研究的領域は第IIIクラスターの自然・医療、また芸術的領域は第Vクラスターの社会・芸術、そして社会的領域は第IVクラスターの対人・社会、第Vの各クラスターと関連がある。

企業的領域は、第IV、第Vクラスターの対人・社会および社会・芸術の各分野と正の相関が、反対に、第Iクラスターの機械・技術との間に5%水準で負の相関がみられる。さらに、

## 職業行動に関する一考察

慣習的領域は第Ⅵクラスターの事務の分野との間に有意な正の相関がみられる。

### ② 活動性とVRテストの自信尺度について

現実的領域はVRテストの第Ⅰクラスター、第Ⅱクラスターと、研究的領域は第Ⅲクラスターとの関連が深い。また、芸術的領域は第Ⅴクラスターと、社会的領域は第Ⅳ、第Ⅴクラスターと、企業的領域は社会的領域と同様に第Ⅳ、第Ⅴクラスターと相関が高い。

また、企業的領域は興味と同じように、第Ⅰクラスターの機械・技術が負の相関を示す。さらに、慣習的領域は1%水準ではあるが、第Ⅵクラスターの事務の分野と関連性が認められる。

以上から、SDSの6領域の活動性は職業レディネス・テストの8つのクラスターと、かなりよく対応していることが明らかになった。しかも、全般を通しては、職業レディネス・テストの自信尺度より、むしろ、やりたい、やりたくないという興味尺度の方が活動性と有意な相関が多くみられた。

## ◇ SDS の能力と VR テストの興味および自信尺度との関連性

### ① 能力とVRテストの興味尺度について

活動性と同様、現実的領域は第Ⅰクラスターの機械・技術、芸術的領域は第Ⅴクラスターの社会・芸術と相関が高い。また、企業的領域も社会的領域と同様、第Ⅳ、第Ⅴクラスターと、慣習的領域は第Ⅵクラスターの事務、第Ⅶクラスターの対人・サービス、第Ⅷクラスターの手工・技能の分野とそれぞれ関連が深い。

6領域のうち、研究的領域は、1%水準で第Ⅲクラスターの自然・医療と相関がみられる。

### ② 能力とVRテストの自信尺度について

現実的領域は第Ⅰクラスター、芸術的領域は第Ⅴクラスターと、また、社会的領域は第Ⅳクラスター、第Ⅴ及び第Ⅶクラスターのいずれも対人接触を含む分野と関連がある。

企業的領域も第Ⅳクラスター、第Ⅴクラスターと相関がある。さらに、慣習的領域は第Ⅵクラスターと強く結びついている。研究的領域は興味尺度と同様、5%水準ではあるが第Ⅲクラスターの自然・医療と関連が深い。

以上から、SDSの能力とVRテストの興味および自信尺度は、活動性は同じように、6領域がうまく8つのクラスターと対応している。しかも、能力と、どれほど仕事がやれるかという自信尺度では、研究的領域が第Ⅲクラスターの自然・医療とのみ関連があり、また、企業的領域と第Ⅵクラスターの事務、慣習的領域と第Ⅶクラスターの対人・サービスの各分野は、有意な相関がみられず、興味より、より限定された結びつきで有意な相関がみとめられる。

## ◇ SDS の職業興味と VR テストの興味および自信尺度との関連性

### ① 職業興味とVRテストの興味尺度について

## 職業行動に関する考察

現実的領域は、VRテストの第Iクラスターの機械・技術、第IIクラスターの研究・管理と、研究的領域は、第IIIクラスターの自然・医療、芸術的領域は、第Vクラスターの社会・芸術と特に相関が高い。また、社会的領域は、第IVクラスターの対人・社会と、企業的領域は、第Vクラスターの社会・芸術、さらに、慣習的領域は、第VIクラスターの事務とそれぞれ相関がある。

### ② 職業興味とVRテストの自信尺度について

興味尺度とほぼ同じ結果を示している。6領域のなかで企業的領域にのみ、1%水準でVRテストの第IV、第V及び第VIIクラスターの対人接触の多い職業領域と有意な相関が認められる。

また、活動性、能力及び職業興味における興味尺度と自信尺度との関連性は、興味・自信が相互に関係していることが本結果から明らかになった。

SDSの3つの側面とVRテストの興味及び自信尺度との関係を検討した結果、予想されたように6領域が8つの職業クラスターとうまく対応していることから、本調査票は妥当性があるものと思われる。

### (2) SDSとEPPS\*との関連性

高等学校\*\* 2年生、男子58名を対象に、1979年6月23日、同年7月2日に Edwards Personal Preference Schedule を実施した。一方、SDS 調査票は、1979年6月8日と同年6月15日に実施した。そこで、EPPS と SDS との関連性を見出すために、Table 7の通り、ピアソンの積率相関係数を求めた。

その結果、全般に相関値は高くないが、幾つかの数値に有意な関係が求められた。すなわち、15のEPPSの特性とSDSの総合得点結果との相関係数は、現実的領域を除き、残り5領域のいくつかに有意な値を認めることができた。以下に各領域の特徴を順に示すと、研究的領域は、EPPSの「持久」との間に.235の有意な正の相関、反対に、「親和」と「攻撃」が、それぞれ-.255、-.248の負の相関が得られた。

ホランドによると、研究的なタイプを示す人は、持久、達成、自制に関する欲求が顕著で、しかも、対人関係面では、非社会的、非協力的で受動的である。そして、内面的、独立的であり、無口であるとしている。また、ウェイクフィールドら(1975)は、VPIを用いた研究で、研究的領域について、「達成」と「持久」に特徴があることを指摘している。

芸術的領域は、EPPSの「秩序」と「持久」に、それぞれ-.328、-.200の負の相関がみられた。これより、この領域は、計画的に順序だてた特性、また、最後まで粘り強く進める特性と逆の関係にある。ホランドがいう無秩序な、感情的、衝動的なパーソナリティと本結果は一致する。また、渡辺氏(1975)はVRテストとの関係で、第Vクラスターの社会・芸術

\* Edwards, A. L., 肥田野他 Edwards Personal Preference Schedule 日本文化科学社 1970

\*\* 兵庫県にある私立A高等学校



職業行動に関する一考察

Table 7  
SDSとEPPSの相関関係(r)について<sup>a),b)</sup>

	現実的 (R)	研究的 (I)	芸術的 (A)	社会的 (S)	企業的 (E)	慣習的 (C)
達成	.041	.140	-.060	-.192	.039	.053
追従	-.070	.167	-.134	-.085	-.004	.270**
秩序	.095	.183	-.328**	-.125	.076	.298**
顕示	-.032	-.154	.164	.024	.138	-.178
自律	-.133	.171	.059	-.143	.029	.031
親和	.010	-.255*	-.038	.356**	.164	-.102
他者認知	.012	-.002	.185	-.073	-.135	-.165
求護	.079	-.154	.151	.087	-.065	-.056
支配	-.198	-.060	.098	.097	.240*	-.152
内罰	.010	.155	-.034	.044	-.085	.066
養護	-.110	.057	.040	.240*	-.042	-.037
変化	.051	-.152	.099	.007	-.033	-.119
持久	.124	.235*	-.200*	-.148	-.277**	.185
異性愛	.159	.025	-.048	-.077	-.085	-.137
攻撃	-.146	-.248*	.059	-.026	.085	.151

\*P<.05 \*\*P<.01

a) 高校生男子87名を対象とする。

b) SDSの実施は1979年6月におこない、EPPSも同年6月と7月に実施した。

は、EPPSの「変化」との間に正の相関を、「秩序」や「持久」とは負の相関を得ているが、これらの結果とも一致している。

社会的領域は、EPPSの「親和」と「養護」に、.356、.240の相関がみられた。「親和」や「養護」の性格特性は、対人関係の特性である。この結果は、ターナーら(1975)の研究の社会的領域に属する人は、社交性があるとの結果と合致する。また、ホルンドの掲げるこのタイプの人、協力的、社交的、親切であり、他の人への援助の手をさしのべたい傾向をもつとの記述とも一致する。

企業的領域は、EPPSの「支配」との間に、.240の正の相関、反対に、「持久」との間に-.277の負の結果が得られた。ホルンドのこのタイプは、自己顕示的、衝動的、快楽追求的、支配的、エネルギッシュな特徴をもつものであり、これらは、EPPSの特性をそのまま表している。

慣習的領域は、EPPSの「追従」と「秩序」に、それぞれ.270、.298の正の相関を示すが、規則にのっとり、一定の順序をもつというホルンドのパーソナリティ特徴と合致してい

職業行動に関する一考察

Table 8

SDSとGATBとの相関関係(r)について<sup>a),b)</sup>

SDS		活 動 性					
GATB	R	I	A	S	E	C	
知 能	.010	-.147	.107	.222	.175	.035	
言語能力	-.088	-.095	.253	.213	.228	.074	
数理能力	-.113	-.059	.136	.209	.166	.103	
書記的知覚	-.182	-.126	.113	.370*	-.023	.281	
空間判断力	.324	.070	.016	.152	-.016	-.076	
形態知覚	.169	-.102	.010	.092	-.043	-.088	
運動共応	-.214	-.286	.168	.094	-.216	.220	
SDS		能 力					
GATB	R	I	A	S	E	C	
知 能	.163	.035	.234	.044	.269	.011	
言語能力	.157	-.074	.269	.149	.272	-.019	
数理能力	.269	-.270	.178	.058	.310	.255	
書記的知覚	.002	-.254	.229	.157	.082	.164	
空間判断力	.426**	.058	.122	-.076	.013	.059	
形態知覚	.307	-.031	.001	.048	-.049	.041	
運動共応	-.100	-.119	.157	-.281	-.119	.347*	
SDS		職 業 興 味					
GATB	R	I	A	S	E	C	
知 能	-.034	.017	.118	.023	.116	-.360*	
言語能力	-.153	.023	.193	.099	-.029	-.383*	
数理能力	-.090	-.114	.211	.128	.205	.089	
書記的知覚	-.130	-.166	.239	.244	.135	.186	
空間判断力	.239	.019	.083	.018	.075	-.232	
形態知覚	.095	-.079	.095	.125	.032	-.144	
運動共応	-.063	-.192	.187	-.163	.155	.161	
SDS		能力の自己評価①					
GATB	R	I	A	S	E	C	
知 能	.111	-.273	.197	-.132	.117	-.034	
言語能力	-.019	-.409*	.354	.033	.009	.123	
数理能力	-.035	.016	.084	.297	-.082	.103	
書記的知覚	-.295	-.362*	.139	.212	.041	.476**	
空間判断力	.458*	-.074	.129	-.232	-.299	-.146	
形態知覚	.204	-.099	.135	.027	-.258	-.121	
運動共応	-.075	-.419*	.329	-.020	.177	.222	
SDS		能力の自己評価②					
GATB	R	I	A	S	E	C	
知 能	.079	-.156	.145	-.032	-.075	.003	
言語能力	-.077	-.292	.195	.168	.046	-.014	
数理能力	-.118	.141	-.033	-.102	.283	-.109	
書記的知覚	-.403*	-.262	.091	.309	.096	.147	
空間判断力	.356*	.018	-.056	-.160	-.114	-.014	
形態知覚	.000	.130	.119	-.084	-.219	-.046	
運動共応	.010	-.086	.382*	-.152	-.378*	.132	

\* P<.05 \*\* P<.01

a) 大学生男子33名を対象とする。

b) SDSの実施は1978年4月におこない、GATBは同年6月に実施した。

る。

以上、ホランドの6領域は、そのうちの5領域が、E P P Sの15の性格特性との間に関連性が見い出され、これらの結果は、例外もなく、各パーソナリティの特徴を表している。この分析を通じて、ホランドのパーソナリティタイプの各記述は妥当であることが裏づけられた。

(3) SDSとGATB\*との関連性

SDSの下位尺度のうち、能力面に重点をおいた尺度は、仕事に対する能力の可能性を測定した“能力—competencies—”と“能力の自己評価①及び②—self estimates—”である。

Table 9-1  
SDS下位尺度の平均値と標準偏差  
大学生男子 (N=33)

	活動性		能力		職業興味		能力の自己評価①	
	Mean	S D	Mean	S D	Mean	S D	Mean	S D
現実的(R)	3.82	2.05	6.06	2.83	3.15	2.30	3.24	1.89
研究的(I)	4.21	2.20	5.79	2.89	4.85	3.25	3.33	1.75
芸術的(A)	5.42	2.84	3.91	2.72	5.12	3.90	3.55	1.63
社会的(S)	8.06	1.50	5.94	2.92	7.15	3.47	5.15	1.40
企業的(E)	5.48	3.09	5.27	2.88	6.85	2.64	4.24	1.72
慣習的(C)	5.24	2.69	6.76	2.19	5.55	3.14	4.42	1.99

	能力の自己評価②	
	Mean	S D
現実的(R)	3.45	1.60
研究的(I)	4.09	1.96
芸術的(A)	2.76	1.81
社会的(S)	5.09	1.52
企業的(E)	4.15	1.54
慣習的(C)	4.91	1.66

ここでは、GATBとSDSの5側面の下位尺度がどのような関連性をもつか、相関係数で表してみる。結果は、Table 8に示す。また、それぞれの平均値と標準偏差は、Table 9-1、9-2の通りである。

対象は、男子大学生33名である。内訳は、経済学部及び経営学部の3年生19名、4年生14名を対象とする。GATBは、1978年6月1日に実施した。SDS調査票は同年4月20日の実施である。

GATBの紙筆検査から測定できる能力は、知能、言語能力、数理能力、書記的知覚、空間判断力、形態知覚、運動共応の7つである。

Table 8から、下位尺度の能力の自己評価の幾つかの領域で、有意な相関が認められるが、全般に、活動性及び職業興味は関連性が低い。

Table 9-2  
GATBの7つの適性能の平均値と標準偏差  
大学生男子 (N=33)

	Mean	S D
知能(G)	117.67	18.29
言語能力(M)	117.09	11.68
数理能力(N)	111.00	16.83
書記的知覚(Q)	117.12	19.18
空間判断力(S)	102.73	16.22
形態知覚(P)	107.70	23.80
運動共応(A)	103.48	19.86

\* 労働省編 一般職業適性検査(改訂版) 雇用問題研究会 1969

### 職業行動に関する一考察

そこで、比較的特徴がある能力的側面をあげると、SDSの現実的能力の領域は、「空間判断力」との間に、.426の有意な相関値が認められる。すなわち、現実的能力の領域は、機械、もの、図形などを理解、把握する能力と結びつきが深い。また、慣習的能力の領域は、「運動共応」との間に、.347の正の相関がみられる。この結果は、「運動共応」が眼と手、または、指を正確にすみやかに共応させ、迅速に作業を遂行する能力をさし、一方、事務作業を中心とする慣習的能力を考える場合、予想される結果を示している。さらに、「形態知覚」と現実的能力の領域、「数理能力」と企業的能力の領域が、比較的高い相関を示している。

形態知覚は、実物あるいは図解されたものを細部まで正しくみる能力をいうが、これが機械の調整や修理ができる、あるいは製図ができるなどの現実的能力の領域と関連している。一方、計算を速くおこなう能力、応用問題をとく数理能力は部下を指導、監督する能力や事業をする能力などの企業的能力と結びついているが、この場合数理能力を思考および管理能力としてとらえると比較的高い相関が理解できる。

### Ⅲ ま と め

本研究はホルランドの Self Directed Search (1970) を邦語に翻案した調査票から、調査票そのものの信頼性、妥当性の分析を試みたが、あわせて調査票尺度間の内部相関から理論の内容的検討を加えた。以上、順を追って要約する。

1. SDS尺度間の内部相関は、各下位尺度とそれに対応する総合結果の尺度とは、最も相関が高く認められた。また、5つの下位尺度のなかで、各尺度にみられる特定の領域は当該領域と密接に結びついていることが明らかになった。さらに、六角形のモデルについての領域の位置が内部相関により明らかにされた。

2. SDSの信頼性について、折半法と再検査法による検討は、ともに信頼度係数が高く信頼性が認められた。

3. SDSの妥当性について、因子的妥当性による検討では第7因子まで求められたが、寄与率からみると、解釈は第1因子から第6因子までとみられ、現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的能力、慣習的の6因子が確認された。

4. また、併存的妥当性による検討では、まずVRテストを用い検討した。結果は、SDSの3つの側面における6領域が予想された通りVRテストの興味および自信尺度とうまく対応していることが明らかにされた。

5. 次にEPPSとの検討では、EPPSの15の性格特性のうち、追従、秩序、親和、支配、養護、持久、攻撃とホルランドの6領域は関連性が認められ、例外もなく各パーソナリティの特徴を表していることが明らかになった。

6. さらにGATBとの関連では、特定の適性能に対して特定の領域が関連していることが

## 職業行動に関する一考察

明らかになり、特に SDS 調査票の能力的側面とそれにふさわしい適性能力が分析を通して求められた。

以上、4～6の妥当性に関する各テストの相関分析結果から、調査票の併存的妥当性はあるものと判断される。

最後に、本研究では SDS 調査票そのものの検討を試みたが、前述の通り調査票は信頼性および妥当性の高いものとして認められた。しかし、妥当性のうち予測的妥当性の検討は本研究でおこなわれていないが、より有用な調査票を考えるならば、今後、高等学校時での生徒の SDS 結果と当該個人が進学しどのような専攻学部に入っているか、また、学校卒業後に生徒、学生がどのような職業に就き、その中でうまく適応していくかなど、予測的妥当性についての研究を積極的に進めていく必要がある。さらに別な観点からは、調査票は徐々にではあるが現実の職業環境が変化、流動するため、決して固定化したものでなく、調査項目の検討を5年位の間隔でおこない、より一層精度の高いものに開発していかねばならない。

## Appendix

### 〈志望職業について〉

あなたが、将来（近いうちに）つこうとする職業（仕事）について、希望順に3つあげてください。単に、「会社員」、「公務員」などと書くだけでなく、その内容をできる限り詳しく書いて下さい。

第1希望 \_\_\_\_\_

第2希望 \_\_\_\_\_

第3希望 \_\_\_\_\_

### 〈仕事のさまざまな活動的な側面について〉

次に、仕事に関する様々な活動があげてあります。それらの活動について、あなたの好みを判断して、することを好む場合は、数字に○印、反対に好まない、関心がない活動は×印を例のように入れて下さい。

例 ⑤…… ~~⑩~~……

A

1. 電気に関するものを調整、修繕すること。
2. 車（自動車、単車、自転車）を修理すること。
3. 機械に関するものを調整、修繕すること。
4. 木（材木）を使ってものを作ること。
5. 自動車あるいはトラックなど車を運転すること。
6. 金属機械の道具・器具を使用すること。（例えばドリルなど）

## 職業行動に関する一考察

7. 自動車や単車を使って仕事をする事。
8. 製造コース（溶接、せん監など）に進む事。
9. 製図・トレースコースに進む事。
10. 木工・土木コースに進む事。
11. 自動車・機械整備コースをとる事。

### B

1. 科学的な本や雑誌をよむ事。
2. 研究所（室）で仕事をする事。
3. 新しい研究、だれも手がけていない分野を開拓する事。
4. 果物など品種改良し新しいもの（食物）を作る事。
5. 物質（例えば、水や土）の成分をしらべる事。
6. 食物あるいは食品を栄養学的に考えてみる事。
7. 難しいパズルをとく事。
8. 物理のコースを歩む事。
9. 化学のコースを歩む事。
10. 幾何のコースを歩む事。
11. 生物のコースを歩む事。

### C

1. スケッチや絵をかく事。
2. 演劇（芝居）や絵画を見に行く事。
3. 建物、調度品、家具などを設計したり、室内を装飾する事。
4. オーケストラやバンドに出演する事。
5. 楽器を使って練習する事。
6. リサイタル、コンサート、ミュージカルに行く事。
7. 文学的作品や流行小説を読む事。
8. 肖像あるいは写真を作りあげる事。
9. 演劇ものをよむ事。
10. 詩を書いたり、読んだりする事。
11. 芸術（美術・音楽など）コースを歩む事。

### D

1. 友人に手紙を書く事。

## 職業行動に関する一考察

2. 宗教活動に参加すること。
3. 地域の社会的なクラブ（青年会）や会社内のクラブに参加すること。
4. 個人的な悩みなどで相談を受け、人を援助すること。
5. 子供の世話をすること。
6. パーティに行くこと。
7. ハイキングに皆んなと一緒に出かけること。
8. 友人と一緒に遊んだり話したりすること。
9. クラス会、同窓会に参加すること。
10. スポーツ行事に参加すること。
11. 新しい友達を作ること。

## E

1. 人に影響を与えること。
2. もの（品物）を売ること。
3. 政治について議論すること。
4. 自分で事業をすること。
5. 会議に参加すること。
6. 人に話を聞かせること。
7. ある団体の役員として勤めること。
8. 他の人の仕事を指導、監督すること。
9. 会議で皆んなの意見をまとめ、わかりやすく報告すること。
10. ある目標を到達するためにグループを導くこと。
11. 政治運動に参加すること。

## F

1. 机や部屋を整然としておくこと。
2. 手紙あるいは書類を書いたり、ととのえること。
3. 事務や簿記の上で加減乗除すること。
4. いろいろな事務機械を操作すること。
5. 支出の記録を詳細に記入し、保管しておくこと。
5. タイプ修得のためのコースをとること。
7. 実務コース（そろばん、文書事務、商業英語など）をとること。
8. 商業・簿記コースをとること。
9. 秘書コースをとること。

## 職業行動に関する一考察

10. 手紙、報告書、記録などを収録すること。
11. 商取引の手紙を作成すること。

### 〈職業興味について〉

次に多くの職業（仕事）があげてあります。1つずつよく読んであなたにとって、それが関心がある、興味をもつ仕事であれば○印を、あまり好まない、関心がないものであれば×印を所定の欄に記入下さい。

回答は、必ず○、×のいずれかを記入して下さい。

飛行機整備士	詩 人
動植物の飼育・栽培係	オーケストラ指揮者
発電所機械操作員	ピアニスト・バイオリニスト（音楽家）
電気・水道・ガス工事作業員	作 家
土木用ショベル機械操作員	商業デザイナー
測 量 技 師	フリー作家
工事現場監督者	編 曲 家
無線電信技術者	美 術 商
ガソリンスタンド従事者	映 画 監 督
庭 師	声 楽 家
工具デザイナー	作 曲 家
電車運転士	舞台演出家（ディレクター）
写真製版工	脚 本 家
電 気 工	漫 画 家
気象学者	宗 教 家
生物学者	高 校 教 員
天文学者	青少年補導員
航空機設計技師	養護施設職員
人類学者	結婚カウンセラー
動物学者	体育の先生
化学者	看護婦（士）
研究所助手	臨床心理学者
医 師	社会科教師
臨床検査技師	勤労青少年ホーム所長
地質学者	中学校教頭



職業行動に関する一考察

植物学者	カウンセラー
パイロット（飛行機操縦士）	ケースワーカー
物理学者	職業カウンセラー
ラジオ・テレビアナウンサー	帳簿係
商品仕入係	品質管理責任者
証券会社セールスマン	秘書
工場長あるいは支店長	売上げ勘定係
テレビプロデューサー	統計業務員
ホテル支配人	タイピスト
会社経営者	銀行出納係
レストラン（食堂）経営者	税務署員
生命保険外交員	在庫品管理係
旅行会社営業係	電算機設備操作員
不動産営業セールスマン	経理事務係
経営コンサルタント	火災・交通事故保険鑑定人
スポーツ用品販売係	給与支払事務係
知事、市長、議員（国会、市町村）	銀行審査係

〈仕事に対する自己の可能性について〉

次に、仕事に関する様々な活動があげてあります。その中であなたができる、或いは少しでもこなせる活動については、**数字に○印**を、反対にすることが難しいものには**×印**を入れて下さい。

例 ③…… ~~④~~……

A

1. 電気ドリルや電気のこぎり（日曜大工として市販されている）を使うことができる。
2. 電気スタンドや換気扇などの家庭の簡単な電気器具を修理できる。
3. 自動車の機械の調整ができる。
4. カメラや映写機の操作ができる。
5. 木を使って小ぎれいな棚・箱などを作ることができる。
6. 青写真をよむことができる。
7. ヒューズやプラグの取付けができる。
8. ドアの取っ手（ノブ）やちょうつがいの修理・取付けができる。
9. 家の設計を考え、簡単な製図ができる。
10. ラジオ・テレビの簡単な修理やアンプの真空管の取付けができる。

職業行動に関する一考察

11. 水道のパッキングの修理ができる。

B

1. 真空管やトランジスタの働きについて理解している。
2. たんぱく質を多く含んだ食物をあげることができる。
3. ウランについて簡単な説明ができる。
4. 種子の発育状況の観察をする。
5. 天気図をみて明日の天気予測をする。
6. 顕微鏡を使って微生物を観察する。
7. 星座（例えば北斗七星）をみつけることができる。
8. 白血球の役割が述べられる。
9. 簡単な化学式 ( $2\text{H}_2 + \text{O}_2 = 2\text{H}_2\text{O}$ ) を説明することができる。
10. 気象衛星について簡単な説明ができる。
11. 科学的な催し物（見本市）、或いは科学博物館によくでかける。

C

1. 楽器（ギター、ハーモニカ、ピアノなど）を演奏することができる。
2. 2部或いは3部合唱に参加することができる。
3. 独唱者（あらゆる分野の歌手をさす）として歌うことができる。
4. 劇などに出演できる。
5. 簡単な曲を作ってみることができる。
6. 舞踊（社交ダンス、フォークダンス、民謡など）ができる。
7. 人物をスケッチできる。
8. 彫刻や版画ができる。
9. 陶器を作ることができる。
10. 洋服・ポスターなどのデザインができる。
11. 小説や詩を作ってみることができる。

D

1. いろいろなことを人に説明するのが得意である。
2. 社会福祉の活動（ボランティア活動など）に参加する。
3. みんなと一緒に仲よく仕事をする。
4. 目上の人のもてなしをする能力をもっている。
5. 会場の雰囲気になごやかにする能力がある。

## 職業行動に関する一考察

6. 子供たちを楽しく教えることができる。
7. パーティのプログラムを計画することができる。
8. 困った人、悩んでいる人の相談相手ができる。
9. 病院や家庭の奉仕員（ヘルパー）として働くことができる。
10. P T A やサークル活動での催し物や会合の計画ができる。
11. 人の相談にのるにふさわしい人柄をもちあわせている。

## E

1. 学校で級長、その他クラス委員、また、クラブ、サークルでの役員に選ばれたことがある。
2. 1人ひとりを正しくみて、仕事の上で部下を指導、監督できる。
3. 非常にエネルギーで、バイタリティをもちあわせている。
4. 自分のやり方で人を使っていくのがうまい。
5. 営業販売（品物を売る）をする能力がある。
6. みんなの代表として、学校や会社などで発表したことがある。
7. セールスマン、或いはリーダーとしての能力がある。
8. サークルやグループを作ったり、また人をまとめていくことがうまい。
9. 事業（会社経営）をする能力がある。
10. 商品の仕入計画や新しい商品企画をする。
11. 討論するのがうまい。

## F

1. タイプ（和文、英文、カナ、テレタイプ）ができる。
2. 複写機や簡単な印刷機（輪転機）を使うことができる。
3. きまったやり方で資料を整理し記録する。
4. 文章や書類の整理保存ができる。
5. 机にむかって、事務作業の処理ができる。
6. そろばんを使うことができる。
7. 短い時間に多くの文字がかける。
8. 電子卓上計算機を使うことができる。
9. キーパンチのような簡単なデータの作成ができる。
10. 簿記ができる。
11. 売上げ、支払いの伝票を作り、整理記録することができる。

<能力の自己評価について>

次にあげてあるさまざまな特性について、あなたが自分を出来るだけ正確にみつめて、ふさわしいと思う段階の数字を○印でもってかこみなさい。

ただし、6つの特性で同じ段階の数字——順位が同一——があるならば、必ず順位が異なるようにもう一度やり直して下さい。

評 価 1

	機械に関する能力	科学的な能力	芸術的な能力	教えることとの能力	営業販売(ものを売る)の能力	書く(文章を正確に早く書く)能力
高い	7	7	7	7	7	7
	6	6	6	6	6	6
平均	5	5	5	5	5	5
	4	4	4	4	4	4
低い	3	3	3	3	3	3
	2	2	2	2	2	2
	1	1	1	1	1	1

評 価 2

	手腕の技術に関する能力	計算や応用問題を推理しとく能力	音楽に関する能力	人と協力して仕事をする能力	人や仕事を管理する能力	事務能力
高い	7	7	7	7	7	7
	6	6	6	6	6	6
平均	5	5	5	5	5	5
	4	4	4	4	4	4
低い	3	3	3	3	3	3
	2	2	2	2	2	2
	1	1	1	1	1	1

文 献

- Allport, G. W., Vernon, P. E., & Lindzey, G. 1970 Manual Study of Values; Houghton Mifflin.
- Bordin, E. S. Nachmann, B., & Segal, S. J. 1963 "An articulated framework for vocational development" Journal of Counseling Psychology 10, 107-116.
- Crites, J. O. 1969 Vocational Psychology: the study of vocational behavior and development; McGraw-Hill.
- Fromm, E. 1947 Man for himself; Rinehart [谷口隆之助訳『人間における自由』創元社 1979]
- Ginzberg, E., Ginsburg, S. W., Axelrad, S., & Herma, J. L. 1951 Occupational Choice; Columbia Univ.

職業行動に関する一考察

- Guilford, J. P., Cristensen, P. R., Bond, N. A., Jr., & Sutton, M. A. 1954 "A factor analysis of human interests" *Psychological Monographs* 68. (4, Whole No. 375)
- 肥田野直・岩原信九郎・岩脇三良・杉村健・福原真知子訳編 1970 EPPS 性格検査手引〔大学・一般用〕日本文化科学社
- Holland, J. L. 1959 A Theory of Vocational Choice, *Journal of Counseling Psychology*, 6, 35~45.
- Holland, J. L. 1965 *Manual for the Vocational Preference Inventory*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- Holland, J. L. 1970, 1977 *The Self Directed Search*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- Holland, J. L. 1971 *A Counselor's Guide for The Self Directed Search*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- Holland, J. L. 1972 *Professional Manual for The Self Directed Search*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- Holland, J. L. 1973 *Making Vocational Choices: a theory of careers*. Englewood Cliffs: Prentice-Hall.
- Holland, J. L. 1977 *Understanding yourself and your career*. Palo Alto, Calif: Consulting Psychologists Press.
- 森下高治 1980 "青年の職業行動に関する研究"〔相愛女子大学研究論集 第27巻, 相愛女子大学・短期大学研究論集編集委員会〕
- 森下高治 1980 "職業行動に関する心理学的研究—高校生・大学生の職業選択行動を中心として—"未発論文
- Roe, A. 1956 *The Psychology of Occupations*: Wiley.
- 労働省編 1969 "一般職業適性検査手引"〔雇用問題研究会〕
- Super, D. E. 1953 "A theory of vocational development" *American Psychologist* 8, 185-190.
- 職業研究所編 1972 "職業レディネス・テスト手引"〔雇用問題研究会〕
- 職業研究所編 1974 "職業レディネス・テストの活用の指針"〔雇用問題研究会〕
- 武田正信・森下高治 1980 "専攻課程別職業行動の比較研究"〔関西学院創立90周年文学部記念論文集, 関西学院大学文学部〕
- Turner, R. G., & Horn, J. M. 1975 "Personality correlates of Holland's occupational types. A cross cultural study" *Journal of Vocational Behavior* 6, 379-389.
- Wakefield, J. A., J. R., & Cunningham, C. H. 1975 "Relationships between the Vocational Preference Inventory and the Edwards Personal Preference Schedule" *Journal of Vocational Behavior* 6, 373-377.

末筆ながら本稿作成にあたり、関西学院大学文学部教授武田正信先生から有益な御教示を賜ったことを記して感謝の意を表します。